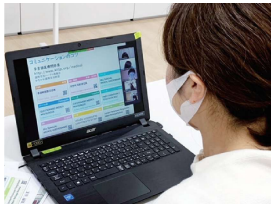
コロナ禍の 今だからこそ「まなび」の時間を有意義に

2020年11/28(土) 甲賀看護専門学校オンライン出前講座

国際看護を学ぶ学生らが、地域に暮らす外国人市民と交流し、その国の習慣や文化的背景、医療に関する制度などを知ることにより、看護に生かせるようにすることを目的に、2008年頃から学校に出向き、学生と外国人市民との交流の機会をつくってきました。今年は、オンラインで実施。学生はそれぞれの自宅から、完全リモートで出席し、ゲストスピーカーには、まるーむから、Zoomを通してお話いただきました。

国際交流協会の活動について簡単に紹介した後、「コロナ禍における外国人の状況」、「外国人の医療事情」、「医療現場でもやさしい日本語を」をテーマに講話。また、Zoomのブレイクアウトセッションを利用して、ゲストを中心にグループトークをし、看護師を目指す学生たちがゲストにインタビューをしながら、病院で困ったことや、それぞれの国の医療事情などについて話しました。

学生からは、「今回、学ばせていただいたことを今後の看護に生かし、地域に貢献できる看護師になりたいと思いました」と感想をいただきました。



2021年2/6・2/20(土) 日本語ボランティア養成講座

講師：浜田麻里先生（京都教育大学教授・甲賀市国際交流協会理事）

今回は、途中で中止となった講座を受講された方限定で、会場とZoomの両方を使って開催。1回目は「初めて日本語を学ぶ人に対して」、2回目は「少し日本語ができる人に対して」をテーマに、日本語の教え方はもちろん、学習者が日本語で、どういったことができるようになればいいかを考え学習の内容を考えることなど、即実践に役立つ内容の講座となりました。

また、来年度の日本語教室に向けて、2つの教室の代表から活動紹介や一緒にボランティア募集についてもお話いただきました。

歳末応援物資配布事業に協力

コロナ禍で生活に困る人が増えています。外国の人たちも例外ではなく、市内の支援団体「e(え)こころステーション」と「フードバンクびわ湖」が「甲賀市社会福祉協議会」と共に歳末応援物資配布事業を行いました。

当協会も地域交流チームを中心に、企業、団体、個人から寄せられた米、茶、缶詰等を市内のブラジルの店（pont br shop）の協力を得て、約100人の外国の人たちに届けることができました。「安心して年末年始を過ごせる」と皆さんが喜んでくださいました。今後も、一時的な支援活動にならないように、彼らの切実な声に真摯に耳を傾け続けていきたいです。

Together

AI（人口知能）の発展が目覚ましい★将棋は名人級も驚きですが、お店の受付や仕事によっては代行もあり、家庭ではお疲れのときの癒し相手まで◎これまで人間にしかできなかったはずの知的行為への進出に喜び驚き、これを浸食と捉えればおののきすら感じます△多文化共生時代で、世界中の様々な考え方を尊重することは当然ですが、ことAIに関しては一定の倫理観を持って開発に当たらないといけないのでは？□ご存知ですか、スピルバーグ映画のAIを。ロボットが愛情を持った未来世界、久しぶりに見直そうかな？（T）

甲賀市国際交流協会　事務局　〒528-0005　甲賀市水口町水口6053　甲賀市役所　別館2階
TEL：0748-63-8728　FAX：0748-70-6468　月～金 9：00～17：30

甲賀市国際交流協会広報部
TEL:0748-63-8728 FAX:0748-70-6468
Email: mifa@mx.biwa.ne.jp
URL: https://kis-koka.org

第55号

KIS通信

2021年2/26(金)
「多文化共生講演会」グローバルセミナー
外国人住民のいまとこれから
～地域で進める多文化共生のポイント～

甲賀市の外国人人口は2020年12月末現在で約3800人、総人口の4.23%を占め、割合としては県内3番目の多さとなっています。最近では、全国的にもベトナムからの技能実習生や技能といった資格での来日が多く、家族とともに甲賀市に暮らす人たちも増えてきました。また、ブラジルやペルーなどの日系の人たちの約６割が永住や定住等の長期在留資格を有し、これからも同じ市内に暮らす「まちづくりのパートナー」としての多文化共生をどのように進めていくかが大きな課題となっています。

このような現状を踏まえ、このほど、一般財団法人自治体国際化協会（クレア）の国際化推進アドバイザー制度を活用し、（財）ダイバーシティ研究所代表理事・田村太郎先生を講師に、市主催、協会共催でオンライン講演会を開催し、会場とリモートを合わせ54名の参加がありました。

講演は、①日本で暮らす外国人の概要、②政府による外国人受入れ政策の変遷、③地域で進める多文化共生のポイントという三段階方式でわかりやすく進められました。また後半は、他の地域での具体的な取り組みも紹介いただくなど、今後の地域活動への大きなヒントを与えていただいた感を抱く、とても有意義な内容でした。

特に、対象者側にいる人が提供者側にも参加しないとニーズに合った情報や施策の提供は難しいとのご指摘や、「かみ合う」社会の実現には、日本人側の意識改革やコミュニケーションスキルを身につける機会も必要とのご提言には、本来あたりまえであるはずのことが、まだまだそのレベルに達していないことを実感。よい刺激をいただきました。

世代、国籍にかかわらず、共に暮らす地域住民として、防災活動などを通じ、まずはお互いを知り合う「和と輪」を広げること。やはり、まずはそこからがスタート。

奇しくもこのコロナ禍で、オンラインでの交流の便利さ、有効性を知ることができたこともひとつのプラス材料として、これを機に各地域、職場で積極的な交流を進められればと思いました。

2021年3/24 水口東高等学校 MSGC（グローバルスタディチーム）作成
やさしい日本語防災カルタ

水口東高校の国際問題や多文化共生について調査、研究するチームのみなさんが制作された、「やさしい日本語防災カルタ」を寄贈いただきました。

読み札の言葉もシンプルでわかりやすく、絵は、部員や美術部の生徒さんが描かれ、それぞれ味があります。

毎年、絵や言葉など、改良点をみつけ、また、防災についても学び、コツコツと取り組んでおられます。

2018年には、SGH（スーパーグローバルハイスクール）甲子園でも、この取り組みが紹介されました。

2021年1/31(日) オンライン国フェス2020開催！ テーマ:夢

今回は中止も考えられた中、昨秋、実行委員が集まり、「今中止にしたら、次につなげられなくなる」、「毎年楽しみにしてくれている人や、フェスタでしか出会えない人もいる。その人たちに会いたい！」というフェスタへの「おもい」を話し合いました。そして、その「おもい」を「かたち」にするため、YouTubeでのオンライン配信という方法で開催することにしました。

オープニング動画のあとは、市長メッセージ、過去のフェスタの写真のスライドショー、歴代の会長、実行委員長、ボランティアからのメッセージ、さらに外国人市民による夢や活動紹介等、多方面からの協力のもと、思った以上に盛りだくさんの内容に。また、「世界の国からこんにちは」には、インド、インドネシア、フィンランド、韓国、シンガポールの方々にZoomで生出演いただくなど、オンラインだからこそ出来たことも多々あり、視聴者からは、「本当によかった！」とのコメントが多数寄せられました。

また今回、ほとんどの動画を学生実行委員がオンライン授業の合間に制作してくれるなど、一人ひとりがそれぞれ出来ることをする、まさに、みんなで作り上げたフェスタとなったことも大きな喜びでした。

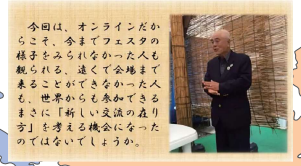
実行委員会の夢は、また次のフェスタでみなさんに会えること。みなさん、その時までお元気で。また会いしましょう！

Zoomを使ってYouTubeで配信！

国フェスの司会は事務局長(左)と大学生の実行委員長(右)

市長からのメッセージ動画

初代会長 大橋淳一様からのメッセージ

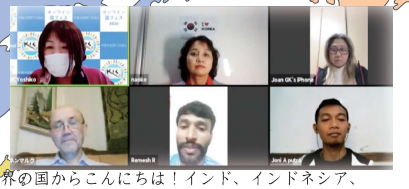


第2代会長 西本信也様からのメッセージ

国際交流協会の活動紹介

過去のフェスタをスライドショーでふりかえる

サラさんのペルー料理紹介


世界の国からこんにちは！インド、インドネシア、フィンランド、韓国、シンガポール(県内在住)から参加

甲賀市の取り組み紹介

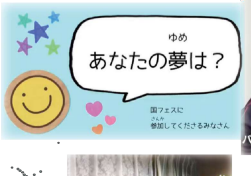
一般社団法人 甲賀市観光まちづくり協会
甲賀流リアル忍者館紹介

環境をまもる活動の紹介

BEPPINE活動紹介

ックさん（ドミニカ出身）

ス ルーカスさん（ブラジル出身）



バーさん（アメリカ出身）

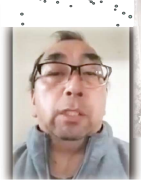
ラジル出身）

バレス ラファエラ 吉井さん

年、2019年 山本実生さん

ンデルソンさん（サントス デュモン学院

レックスさん（フィリピン出身）



たかい エリカさん（スペイン出身）

さん（ペルー出身）

ンカルロさん（ペルー出身）

フナヤガム シワフラカシュさん（イ

田優樹さん

南乃さん

山中拓太さん

当日のYouTubeのURLはこちら

※全員のご紹介ができませんが、市内在住のたくさんの方から、「夢」メッセージをいただきました。
※国フェスの写真は、Youtubeの動画を再生し、スクリーンショットをし、トリミングしたものです。そのため、国名のお名前が途切れているものもあります。

2021年1/23(土) オンライン世界まなびじゅく 第2回目 ニュージーランドとつながろう

甲賀市出身で、ニュージーランド・クィーンズランド在住、航空会社勤務のサラマ奈名子さんに、ゲストとして参加していただきました

奈名子さんの感想を紹介

今回初めて世界まなびじゅくの話を聞いて、「ニュージーランドを紹介したいんだけど、やってもらえる？」と言われた時、迷わず、「もちろん！ ニュージーランドを紹介するなら私に任せて！」と返事をしました。ただ、オンラインでのプレゼンテーションや、子どもたちに向かって話す事など、私自身初めての試みだったので、できるかな？と不安に思うこともありましたが、それよりも「ニュージーランドの良さを伝えたい」という気持ちの方が強く、楽しみながら資料を作ることができました。

今回参加してくれた子どもたちはリラックスした様子で話を聞いてくれて、クイズにも積極的に手を上げてくれたり、私の話に反応してくれたりと、楽しんでくれている姿を見られてとても嬉しかったです。

今回のまなびじゅくに関わって下さった甲賀市国際交流協会のみなさま、この様な機会を作ってくださり、本当にありがとうございました。 （サラマ奈名子）

今回は、回線が切れてしまうハプニングもありましたが、そんな中でも誰一人退出することもなく再開を待っていてくれました。また奈名子さんからのニュージーランド紹介のあと、時間が足りなくなるほど次々と質問してくれたり、参加してくれた子どもたちとその保護者の方々に心から感謝しています。

2020年12/16(水) 甲賀市国際交流協会と利川文化院 Zoomで再会

甲賀市の姉妹都市でもある韓国利川市への訪問が中止になり、今後も直接会っての交流が難しい状況を受け、何とか顔を見て話し合いを持ちたいと、甲賀市国際交流協会と利川文化院とのオンラインでの再会が実現しました。

利川文化院は院長、元院長、事務局長をはじめ7名。協会は会長、副会長をはじめ8名が参加。懐かしさに全員笑顔いっぱいで、一昨年の甲賀市訪問の思い出話なども語られました。

今後の交流について、まずは日本語サークルと韓国語サークルのオンライン交流から始めることになりました。そのほかにもオンラインでの様々な交流を考え実現していきたいと思っています。